

第18回 昭和の森親子観察会

昭和の森の秋を見つけてクラフトづくり！

後藤菊子（千葉市）

日 時：2011年10月23日（日）9時30分～12時30分

参加者：7名（子ども4名 大人3名）

担当指導員：花島・山下・後藤

早朝には小雨が残り、はっきりしない天気でしたが、小雨決行という事とクラフト作りに時間を多くとっていたので実施しました。出発時には雨も上がり、第2駐車場から管理事務所までの短い距離を1時間位かけて観察して行くというコースを、総勢10名で元気に出発しました。

太陽の広場周辺のドングリ（スダジイ・シラカシ・コナラ・クヌギ）を拾いながら草叢にいたバッタやダンゴムシ・ニホンアマガエル（子供達が肌の色が違う2種類のアマガエルを見つけたので、保護色のことも話し合えた）などの生き物も捕まえたり、舌先で熟した柿を味わったり、カツラ落ち葉の香りを嗅いだり、その小さな実を割って種を観察したり（種の旅立ちの話）鳥の声を聴いたり文字通り五感を使っての観察会になりました。管理事務所に着き準備して置いた材料で、早速クラフト作りが始まりました。

アカガシの殻斗のイモムシ、オカメザサの根（ボディ）と脈だけになったホオズキの萼（羽）を使ったトンボ、トチの実の皮を使ってカブトムシやテントウムシ、トトロを木片に並べた物など、同じ材料を使っても各自独創的な作品に仕上りました。マーカーで色を付けたり、動く目、種の目を付けたりすると、その作品が本当に活き活きしてくるのです。

ネイチャークラフト教室を実施するたびに感じることですが、自然に関わりながら物を作り上げるということは、自分を表現できる良いチャンスだと思っています。

最後に各自の作品を発表して貰う時の子供達の自信に満ちた嬉しそうな顔が印象的でした。夫々の作品は紙袋に入れてお土産になりました。

今回は参加人数が少ないということや観察距離も短かったこと也有って、ゆったりとした時間がとれて良かったと思いました。

